

春が来た。春が来た。

何處に來た。――

僕は好い氣持に酔つて、大島節や鴨綠江を歌つた。

『宮島から君の話も聞いたよ、小説を書いたりしてゐるそうだが、君等の居たあの家に、今近藤憲二がねとまりしてゐる。』

主人の辻衛が來て言つた。

シヨゲて不景氣な面をしてゐる。尤も師走だから客もあまり來ない。借金だらけで弱つてゐると言つた。

『之から、カフェー・ロシヤへ行くと好いわ』

お春さんが言つたので、僕はお春さんの手に接吻してから出掛けた。五六丁しか離れて居ない尾張町の横だ。

ロシヤ人の娘が二人居る。

日本人のウエイトレスの美しいのも二三人居た。